

清水建設、手術室向けの免震設備開発

2014/7/8 20:39 | 日本経済新聞 電子版

清水建設は8日、新日鉄住金と病院の手術室向け免震設備を開発したと発表した。手術室の床と切り離れた特殊な鋼板の上に手術台など設備を載せ、揺れのエネルギーが伝わらないようにする仕組み。震度7でも同5弱の揺れに抑え、手術台の転倒を防ぐ。大地震でも病院機能を維持できると訴え、受注を目指す。

開発した免震設備はまず鋼板を床に固定。その上に、手術台が載る鋼板を滑らせて揺れを直接伝えないようにする。免震設備の厚さは5ミリメートル。手術室の床の高さを変えずに済むため、患者を運ぶ台車を円滑に入れられ、医療機器のレイアウト変更も不要という。

従来工法で手術室に免震機能を持たせると、床が20～30センチメートル高くなっていた。新工法の工事は75平方メートルあたり2000万円。従来工法に比べ半分のコストで済むと試算している。

NIKKEI Copyright © 2014 Nikkei Inc. All rights reserved.

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。